

2026年2月14日 昼下がりの演奏会 #4

於：CampGear&Cafe BASE

13:30～プレトーク / 14:00～演奏会

- Performer -

Clarinet 森下 真眸

Pianoforte 小路 詩月

- Program -

クラリネットとピアノのためのソナタ

(レナード・バーンスタイン 作曲)

クラリネット協奏曲

(アーロン・コーフランド 作曲)

今回は、アメリカ合衆国の作曲家による音楽をお届けする。どちらも近現代の作曲家であり、伝統的な作曲技法や演奏技法の域に留まらない音楽で、従来の古典的な音楽によって引き出されるクラリネットの魅力のみならず、新鮮な魅力に満ち溢れたプログラムとなっているだろう。楽器の豊かな魅力、音楽の躍動感が存分に感じられるのは、距離の近い生演奏ならではないもの。ぜひ、全身で音楽を楽しんでいただきたいと思う。

クラリネットとピアノのためのソナタ (レナード・バーンスタイン 作曲)

レナード・バーンスタイン (1918-1990) はマサチューセッツ州出身の指揮者・作曲家・ピアニストである。指揮者としての活躍も非常に名高く、G. マラーの交響曲を集中的に取り上げ歴史的再評価を促すなど、音楽史上に果たした功績も大きい。また、世界的指揮者も多く輩出しており、日本人指揮者である小澤征爾、大植英次、佐渡裕も彼の弟子である。

作曲家としても、3曲の交響曲をはじめ、オペラやバレエ曲、さらにはミュージカルにいたるまでさまざまな曲を残しており、『キャンディード』の序曲 (かつて『題名のない音楽会』のオープニングなどとして使用) や、『ウエスト・サイド・ストーリー』などはとりわけ有名だろう。

さて、『クラリネットとピアノのためのソナタ』は1941年から1942年にかけて作曲された、バーンスタイン 23 歳のときの作品。全 2 楽章からなる。

《第 1 楽章 *Grazioso*》

近代フランスを思わせるような、表情豊かで

優雅な旋律。クラリネットとピアノの音色の対比が美しく、絶妙なバランスで奏でられる。ピアノにリズムカルな伴奏の音型が現れてから、音楽は一気に流れ出すが、最後はまた冒頭の落ち着いた着きを取り戻し、静かに曲を終える。

《第 2 楽章 *Andantino - Vivace e leggiero*》

落ち着いたクラリネットに、ピアノが溶け合い寄り添うような神秘的な雰囲気短い序奏で始まり、その後、速いテンポのリズムカルでダンスブルな 5 拍子の音楽となる。途中に瞑想的な遅いテンポの中間部を挟んで、ラストまで駆け抜けてゆく、非常に生き生きとした高揚感あふれる楽曲である。後に世に出る『ウエスト・サイド・ストーリー』を髣髴とさせるような響きやリズムなどもあり、若かりし日のバーンスタインの才能を存分に感じさせる。

クラリネット協奏曲 (アーロン・コープランド 作曲)

アーロン・コープランド (1900-1990) はニューヨーク州出身の作曲家で、ヨーロッパの音楽の語法をベースにししながら、アメリカの民謡を取り入れた簡明な作風を打ち立てた。『エル・サロン・メヒコ』やバレエ音楽『アパラチアの春』など、編曲されて吹奏楽でも親しまれているなど、近代アメリカを代表する作曲家の一人である。晩年は純音楽作品に回帰するものの、アルツハイマー病を発症し、事実上創作活動に終止符を打つこととなった。

『クラリネット協奏曲』は、ジャズ・クラリネット奏者ベニー・グッドマンの依頼を受け、1947年から1949年にかけて作曲された。原曲において独奏クラリネットに対するオーケストラは、弦楽合奏(第一・第二ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)にハープとピアノ

ノが加わるというシンプルながら特徴的な編成で、コンパクトながら非常に表情豊か、繊細さとダイナミックさを兼ね備えた音楽となっている。

楽曲は全2楽章からなり、第1楽章と第2楽章の間には独奏楽器によるカデンツァが挿入される。全曲を通して切れ目なく演奏される。

《第1楽章 Slowly and expressively》

ゆったりとした序奏に乗って、独奏クラリネットが音域を広く用いた息の長い、モノローグのようなメロディを歌う。素朴さと現代性を兼ね備えた美しく雄大な響きで満たされ、終始穏やかな音楽でありながらも、非常に感情的な起伏に富んだ楽曲である。

(カデンツァ freely)

伴奏が消えるように無くなると、クラリネットは次第に饒舌になってゆく。カデンツァらしく技巧的なものである一方で、この協奏曲においては第1楽章と第2楽章を繋ぐ役割を持っており、第2楽章を支配するラテンアメリカを思わせるジャズのイディオムが現れる。

《第2楽章 Rather fast》

独奏クラリネットのカデンツァに導かれ、第1楽章とは打って変わったような活気あふれる非常にリズムカルな音楽が始まる。独奏クラリネットとオーケストラの対話や、オーケストラ内での各パートの対話が繰り返され、掛け合いながら激しさを増して盛り上がってゆく。

盛り上がりもクライマックスに達したコーダ部（終結部）ではクラリネットは何度も高い音域に向かって駆け上がるフレーズが続き、最後にはポルタメント（音程を滑らかに変化させる）により高音まで駆け上がり終結を迎える。

(文・仮屋賢一)

【演奏者】

クラリネット：

森下 真眸（もりした・まみ）

2003年生まれ、京都府出身。中学校の吹奏楽部で12歳よりクラリネットを始める。立命館高等学校普通科を経て、現在、京都市立芸術大学音楽学部音楽学科管・打楽専攻4年に在学中。第6回豊中音楽コンクール高校の部管楽器部門第1位。第41回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール本選大阪1にて本選優秀賞、同コンクール全国大会奨励賞。令和3年度長岡京市文化賞 文化奨励賞受賞。これまでにクラリネットを草野友善、小谷口直子、ブルックス 信雄 トーンの各氏に師事。室内楽を大嶋義実、上田希、加瀬孝宏、ブルックス 信雄 トーンの各氏に師事。

ピアノ：

小路 詩月（しょうじ・しづく）

第32回来音会A級金賞。2013年度JOCハイライトコンサート出演。第32回大東楽器ピアノフェスティバル優秀賞。第75回、第76回全日本学生音楽コンクール高校生の部大阪大会入選。第2回京田辺市音楽コンクール自由曲コース高校生部門銅賞。これまでに舟曳千智、大西淑絵、鳥居知行、河内仁志に師事。大阪府立夕陽丘高校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻3年に在籍。

プレトーク・司会：

仮屋 賢一（かりや・けんいち）

作曲家で俳人。

2025年、大阪・関西万博のステージのために『Uni-Tunes』を作曲、また本番ではこの曲を含め、万博にて指揮を務める。

2017年、イタリア・アルバ音楽祭に作曲家として参加し、フルートオーケストラのための

『蝶 Le Farfalle』を新作初演。また、武満徹作曲のピアノ曲『ロマンス』をフルートオーケストラ用に編曲し、こちらも初演。2024年3月には、私立高等学校の吹奏楽部定期演奏会において、オリジナルミュージカル曲の作詞作曲を担当。

また、今様音楽企画のメンバーとして、「美山音楽祭」の準備・企画・運営に尽力。音楽祭期間中は、新曲の初演のみならず、司会やワークショップ講師やトークショー登壇なども行う。

作曲は独学。今様音楽企画、関西現代音楽交流協会、関西室内楽協会に所属。また、俳句雑誌「奎」代表として俳句も嗜む。

昼下がりの演奏会
於：CampGear&Cafe BASE

《今後の予定》
#5
2026年3月8日（日）
フルート&ピアノ

以降も毎月開催
最新情報はWebサイトをチェック！

13:30～プレトーク / 14:00～演奏会
入場無料・0歳から入場可・出入自由

～「昼下がりの演奏会」とは～

ここCampGear&Cafe BASEを、「誰でも気軽に音楽と触れ合える」場にしたい、そんな思いで2025年11月に開始したシリーズです。本格的でありながら、ふらっと訪れて、気軽に楽しめる演奏会です。

今回のイベントについて、以下のQRコードのアンケートからぜひご意見・ご感想等お聞かせください！ いただいた貴重なご意見は、今後より良いイベントを創り上げていくため、参考にさせていただきます。



主催：

合同会社リコラボ

代表 仮屋賢一（作曲家・俳人）

ウェブサイト <https://ricollab-create.com/>

お問い合わせ：075-275-7570

info@ricollab-create.com

右のQRコードからLINE友だち登録して、イベント最新情報をGET！ ここからお問い合わせもしていただけます。

